

平成 26 年度 愛媛・高知交流会議 議事録

開催日時：平成 26 年 5 月 13 日（火）14:00～15:00

開催場所：五台山 竹林寺<書院>（高知県高知市五台山）

出席者：愛媛県知事 中村 時広

（敬称略） 高知県知事 尾崎 正直

1 開会

（司会（小谷高知県総務部長））

ただ今から平成 26 年度愛媛・高知交流会議を開催いたします。

本日の会議の進行役を務めさせていただきます高知県の小谷でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、今年度の開催県であります高知県、尾崎知事からごあいさつを申し上げます。

2 開会あいさつ

（尾崎高知県知事）

本日、愛媛・高知交流会議の開催に当たりまして、中村知事はじめ、愛媛県の皆様、ようこそ高知県までお出でいただきまして、本当にありがとうございます。

この愛媛・高知交流会議、今年で 14 回目になりますけれども、毎年こういう形で会議を重ねていく中で、高知県と愛媛県との間の交流関係が深まり、また四国一体となったさまざまな交流が深まってきているのではないかと思います。

特に、今年は四国霊場開創 1200 年という記念の年でございます。四国を一体として回っていくこのお遍路様を全国の皆様にぜひ知っていただきたい、そういう年でもございます。そういうこともございまして、今年度は愛媛・高知交流会議をこの竹林寺様をお願いをしましてこの場をお貸しいただいておるといふことでございます。

四国一体となったさまざまな協力について、具体的な取り組みが一つひとつ進んできておるのではないかなと思っております。産業振興の面では、四国産業競争力強化戦略が新たに作られることとなり、四国 4 県として強化・協力関係がスタートしようとしております。

また、防災関係につきましても、四国 4 県、さらには関係する県との間で協力関係が一つひとつ進み、南海トラフ地震対策にも雄々しく立ち向かっていこうという状況になってきているところでございます。

こうした各県との協力関係をしっかりと構築していくためにも、まずは一番ご縁の深い愛媛県と高知県との間でいろいろと協力関係を確認していくという点でも非常に有意義ではないかと考えておるところです。

本日、1 時間の短い時間ではありますが、事前にお互い事務方同士でも準備してきた点もございまして、これらも踏まえまして、中村知事とぜひ有意義な会議を持たせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（司会）

それでは、愛媛県・高知県に共通する課題や連携交流などにつきまして、意見交換項目の順番に沿ってフリートークでの意見交換をお願いいたします。

なお、以降の進行は、開催県ということで、尾崎知事にお願いいたします。

3 意見交換

(1) 四国産業競争力強化戦略について

(尾崎高知県知事)

それでは、最初に四国の産業振興に関連をいたしまして、まず、四国産業競争力強化戦略について意見交換をさせていただきたいと思います。この件につきましては、まず私から発言をさせていただきたいと思います。

ご案内のとおり、愛媛県をはじめ四国の各県、そして経済団体などの皆様方のお力添えをいただきまして、この3月に四国産業競争力強化戦略を策定いたしました。昨年11月からの会議で、短期間ではございますが、大変多くの皆様から活発なご意見をいただきまして、できる限り実効性のあるものということで協議を重ねてきたところでございます。

この強化戦略につきましては、例えば、四国のこれだけ間口の広い方々が集まって、危機感を共有したケースは過去にあまりないのではないかというお話をいただいたり、他方でプロジェクトマネジメントが重要だよというお話もいただいたりと、ご意見をそれぞれ委員の皆様からいただいたところであります。危機感を共有して策定をしました戦略であります。ぜひ絵に描いた餅にしないよう、実効性のあるものとするべく取り組みを共に進めさせていただきたいと考えておるところです。

特に、四国が連携して取り組もうとしております連携プロジェクトにつきましては、今回の強化戦略策定にあたって新しく作り上げたものでございまして、それぞれプロジェクトリーダーとして担当を決め、またそれぞれの実行計画も一定固めたうえで、取り組みを進めようとしているものでございます。しっかりとPDCAサイクルを回して実効性のあるものとなりますよう、実際にさまざまな経済的な効果をもたらすものとなりますように、共に取り組みを進めさせていただきたいと考えております。

この6月3日には、本年度最初の四国地方産業競争力協議会を開催することを予定しております。それぞれのプロジェクトについて具体的な事業計画を策定することを予定しているところでございます。6月3日の四国知事会当日の午前中に、この競争力協議会を開催させていただくこととなります。このときにしっかり事業計画を作り、そして今年度を通してPDCAサイクルをしっかり回していくということが非常に重要だと思います。ぜひ絵に描いた餅にしないように、共に取り組みを進めさせていただきたいと考えておりますので、中村知事のご指導をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

まず、この四国地方産業競争力協議会につきましては、国の方から地域ブロックの広域的な連携の取組みを促していくということもあって設置された機関でありますけれども、尾崎知事にはこの会長として、また高知県には事務局としてリーダーシップやイニシアチブを発揮していただいております。感謝を申し上げます。

愛媛県でも高知県でも、それぞれ県単位で独自の産業政策を展開しているところですが、どちらかという産業政策というのは、例えば1つの県内においても地域においても縦割りの傾向が非常に強くて、系列であるとか市単位もあると思いますが、横串の連携というものが1つの県をとってみても非常に弱いと個人的にもつくづく感じてきました。こうしてみると、横串の連携の道筋が立てられた場合には、新たな可能性というものが十分生まれてくる素地があり、それを四国という更に広域な範囲で、お互いの持ち味を生かしてつなぎ合わせていくことによって新たな可能性を生ん

でいくというのは非常に大事な視点だと最近つくづく感じます。そのためには、やはりこの四国地方産業競争力協議会の取組み、お話があったような個々がリーダーシップを発揮した主体的な取組み、さらには産業界だけではなく学、官を巻き込んだ連携が非常に重要だと思います。その点、我々もどんどん意見を上げ、協力していきますので、尾崎知事におかれましては会長として、今までどおりリーダーシップを発揮していただけますように、どうぞよろしく申し上げます。

(2) 四国ならではの観光資源づくりについて

ア 四国遍路を生かした観光振興について

(尾崎高知県知事)

それでは、連携プロジェクトに絡めて、具体的な点についてお話をさせていただきたいと思えます。

まず、この四国産業競争力強化戦略にも位置づけられております四国ならではの観光資源づくりとして、四国遍路を生かした観光振興について、意見交換をさせていただきたいと思えます。

この件につきましても、まず私から発言をさせていただきますが、先程来お話申し上げておりますように、本年は四国霊場開創 1200 年という絶好の機会でございます。この年のこの話題性を生かして、巡礼者の皆様のみならず、もともとあまり関心のないという方々にもぜひ全国から関心を向けていただきたい、そういう機会にしていきたいと考えております。観光客の誘致、周遊促進に向けまして、4 県連携しての取組みをぜひ進めさせていただきたいと考えております。

この点、今年各県で「四国へんろ」をテーマにした展覧会をそれぞれ開催していくこととなっております。特に高知と愛媛のへんろ展につきましても、開催時期も一部重なってくることとなります。ぜひ高知の方でも愛媛の事について大いに PR していきたいと思えますので、また愛媛の方でも高知の事を PR していただいて、相互に連携をさせていただきながら、共に盛り上げていけるようにさせていただければと考えております。

その他、ホームページや広報紙などを生かしまして、ぜひお互いに情報発信をさせていただければと思えますので、よろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

まさにこの四国遍路を生かした取組みは、最も四国が一体となって力を合わせていきやすい、連携しやすい取組みだと思えますね。お話がありましたように、それぞれが共有している宝物でありますから、お互いが PR し合うような、そんな関係が強化できたらよいと思えます。

今日もこの竹林寺に来て、50 年振りの御開帳に巡り会えてほんとうに興奮しました。特に今日は、文殊菩薩様とお弟子さんの童子のやりとりの場面から「指南」という言葉が生まれたということに感動を覚えました。ここに限らず、それぞれのお寺に固有の物語や歴史があるのではないかと感じました。愛媛においても西予市にある愛媛県歴史博物館で一昨年から 200 体の弘法大師の和紙人形の常設展示を実施しており、それに合わせた形で弘法大師空海展も開催していますから、また高知の宣伝もそこでもできればよいと思えます。

もう一つ、昨年スペイン大使が愛媛に来られたときにちょっと遍路道と一緒に歩いてみたんですが、スペインの巡礼路も歴史が 1200 年でちょうど同じくらいなんです。あちらはもう世界遺産に登録されているということで、先輩格としてそのあたりのアドバイスをいただきたいということ、これは愛媛だけの話ではなくて、四国全体の問題としてということをお伝えしました。その後、大使の働きかけで、レオン県というまさに巡礼路がある県の副知事さんも愛媛にお見えになりました。そんなところへも四国で 1 回アプローチしてみたらどうかと思えますので、よろしく願いいたします。

(尾崎高知県知事)

遍路道の世界遺産登録、こちらへ向けて、また共に連携をさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(2) 四国ならではの観光資源づくりについて

イ 自転車等を活用した四国西南地域の広域観光における連携について

(尾崎高知県知事)

そして、次に観光資源づくりの2つ目の項目といたしまして、自転車等を活用した四国西南地域の広域観光における連携について意見交換をさせていただきたいと思います。自転車と言えば中村知事だと思えます。まずお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

自転車というのは、ほんとうに新しい観光振興の切り口になると考えて、まず先行してしまなみ海道での取組みを進めています。上々のスタートを切っています。自転車文化については、日本ではこれから拡大していく分野、それからアジアでは急速に拡大している分野、欧米ではもう既に拡大している分野であるという位置づけだと思っています。

先ほどの八十八箇所とも関連しますが、やがては八十八箇所巡りを巡礼路のように自転車で回るというのも一つの形になるということも、視野に入れていきたいと思っています。

その中で一つひとつの取組みを進めているところですが、特に高知県とはぜひ県境を超えたプロジェクトを推進できたらと心から期待しています。とりわけ愛媛の松野町辺りと高知の四万十、この辺りには、片や溪谷を活用したキャニオニング、片や四万十川のカヌーといった魅力があって、サイクリングの道の雰囲気も全然違うので、これはいい宝物になるのではないかと個人的にも期待しているルートです。サイクリングを活用した観光振興のためにもアクセスをどうするか、受入れをどうするか、そんなことを高知県と一緒に考えていくことができればよいと思っていますので、よろしく申し上げます。

(尾崎高知県知事)

四国は本当にサイクリングにとっては、非常に適地なんだろうと私も思います。海も山も川も一体となって揃っている地域で、さらに言えば、それぞれ土地土地を移動していくにあたって、景色も変わってくるということでありまして、ぜひこのサイクリングを世界に向けた四国観光の売りとして取り組みできるようにしていければと思っています。

そういう点で、自転車道の整備とか、さまざま進めていかなければならないこと、両県協力して行っていかなければならないこともあろうかと思っています。また、愛媛県さんともいろんな形でご相談させていただきながら、こちらの方の整備も進め、また売り込みも協力してやらせていただければと思います。ぜひ一体となってイベントとか開催をさせていただければと思いますので、よろしく申し上げます。

(中村愛媛県知事)

開催だけではなく、やはり尾崎知事と私が自転車で走らないといけないということで、ぜひ一緒にサイクリングをする機会があればと思っています。

(尾崎高知県知事)

そうですね。ぜひよろしく申し上げます。やりましょう。

(3) 四国産品等の共同での売り込みについて

ア 四国産品の大都市圏での販路拡大・販売拡大について

(尾崎高知県知事)

それでは、次に四国の産業振興関係で3つ目ですが、四国産品等の共同での売り込みについて、意見交換をさせていただきたいと思います。

まず、四国産品の大都市圏での販路拡大・販売拡大についての意見交換をさせていただきたいと思います。こちらは、四国産業競争力強化戦略の中でも四国の産品を共同で売り込んでいこうというプロジェクトにつきましては、連携プロジェクトの柱として位置づけられているところでありまして、我々高知県がプロジェクトリーダーを務めさせていただいておるところです。

各県ごとにそれぞれの各県の仕様に合った形で、それぞれの県産品の対外的な売り込みの取り組みを進めているところでもあります。愛媛県でも大変実績を上げておられますし、我々も少しずつ取り組みの強化をしてきているところでもありますけれども、ただ、売り込み先が大都市圏であったり、遠いところであったり、もっと言えば海外であったりというような形になって、やはり射程が長くなればなるほど、四国4県で連携して取り組んでいくことが非常に実効性を持つてくるということになるのではないのかなと思っております。各県それぞれでの取り組みを行っていきながら、併せて四国4県一体となって、四国ブランドとして売り込みをしていくという取り組みも並行して進めさせていただければと考えておるところです。

この強化戦略ができる以前から四国産品外商ネットワーク会議、こちらが昨年からの議論で設置をされて、具体的な取り組みを進めてきているところでもありますけれども、このネットワーク会議の今までの取り組みも生かしていきながら、この強化戦略での取り組み、こちらも力に新たに加えていきながら、四国ブランドの売り込みに向けた共同の取り組みを強化させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(中村愛媛県知事)

物品・物産の販売というのは、その地域の1次産業や加工産業を将来の成長につなげていくために欠くことのできない戦略だと思っておりますが、取り組みの手法というのは恐らくそれぞれの県固有のものだと思います。例えば、高知県の場合は外郭団体が営業部隊として活躍されていると聞いています。本県の場合は、営業本部を県庁本体に置いて同じような役割を担っています。そのあたりの違いをお互いに認識しながら連携させていくことを、我々がまずやっていかなければいけないと感じています。

お話のように、ターゲットが遠くなれば遠くなるほど、やはり1県単独だと知名度の問題があります。四国という広域でフェアを実施するほうが相手に対するインパクトも大きいですし、それから何といたっても品揃えが一気に拡大しますから、豊富なメニューというものが多くの方々を引きつける力になるので、四国地方産業競争力協議会等で十分戦略を練って、四国で取り組むべきターゲットをしっかりと見定めて、みんなが良くなるような取り組みをぜひ実施してみたいと思います。

(3) 四国産品等の共同での売り込みについて

イ 東アジアでの四国企業等の販路開拓について

(尾崎高知県知事)

そういう点において、次の項目になりますが、東アジアでの四国企業等の販路開拓について、愛媛の方で大変お力を入れていただいておりますし、高知の方も共に連携をさせていただきたいと思っておりますけれども、この点についてお話いただければと思います。

(中村愛媛県知事)

高知県もいち早く海外、特に東アジアへはかなり戦略的に攻め込まれていると聞いています。我々もシンガポールに駐在員を置いたり、それから私も、ここ最近東アジアへのトップセールスが非常に多くて、昨年からはベトナム、シンガポール、台湾、マレーシア等を回ってきたりして、やはりどういうマーケティングで攻め込んでいくのがすごく大事だとつくづく感じています。

それぞれが情報を持っていると思いますので、お互い情報を共有しながら、先ほど遠くなればなるほど一体感のある取組みがインパクトを与えたいと言いましたが、東アジアはまさにそういった力で力を発揮しやすい場所であると思っています。特に本県と高知県とは柑橘を両県とも作っているけれども品種が重ならないとか、魚も魚種が違うとかですね、非常によい棲み分けができ、重ならない形でメニュー展開ができると思いますので、またぜひよろしくお願いいたします。

(尾崎高知県知事)

お願いします。海外での売り込みという点について言えば、四国まるごと・東アジア売り込みプロジェクトが四国産業競争力強化戦略の中において、愛媛県さんがリーダー県として今後取り組みを進めていただくということでありまして、我々もプロジェクトに積極的に参加をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

特に、新しく愛媛県でシンガポールに拠点を設けられることとなりました。我々シンガポール事務所も長年現地でいろいろ取り組みをしてきております。さまざまな販路開拓の取り組みをしてきておるところでございますが、ぜひ現地の拠点同士でも協力をさせていただければ、より強力な売り込みができるのかなど。現地のデパートなんかでフェアとかやったりします。やはり高知県フェアとして単県でやるより、例えば愛媛・高知フェアの方がより良いインパクトを与えるでしょうし、もっと言えば四国フェアの方がある意味道理にかなっていることなんだろうと思うので、そういう取り組みを進められるように、現地での協力というものをぜひ進めさせていただければと思います。

以上、意見交換させていただきました事項、いずれも四国産業競争力強化戦略を進めるうえで大変重要なプロジェクトということになるわけでございますが、ぜひ絵に描いた餅にならないように、これを実効性あるものとなるよう取り組み進めていきたいと考えております。

そういう意味でも6月3日の会議のときに、どれだけ年間の計画をしっかりと作り上げていけるかということが非常にポイントになるのではないかと考えておりまして、また両県で協力していきながら、特にそれぞれリーダーを務めるプロジェクトについて具体的な計画を作り、そして着実に実行していくと、PDCAサイクルをしっかりと回していきたくて考えておりますので、またぜひ共に進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(4) 南海トラフ地震対策のさらなる強化について

(尾崎高知県知事)

それでは次の項目といたしまして、災害対策、そして基盤整備についてお話をさせていただきたいと思います。ここでは3つの項目について話し合いをさせていただきたいと思います。1つは南海トラフ地震対策について、そしてもう1つは原子力発電所の安全対策等について、3つ目が「四国8の字ネットワーク」の早期実現に向けた取り組みについてということになります。

まず、南海トラフ地震対策についてでございます。まず御礼を申し上げたいのは、愛媛県の皆様方には大変ご協力をいただきまして、四国知事会の枠組み及び9県知事会議の枠組み、こちらを通じてさまざまな対外的な取り組みについて協力関係を持って、行っていておりますことについて、御礼を申し上げたいと思います。

そういう中で、昨年11月に南海トラフ地震対策特別措置法が制定をされることとなり、12月にはこの法律が施行されることとなったわけでありまして。この法律によってさまざまな対策、特に津波対策について、大幅に加速をしていくことになるのではないかと期待をしておりますのでござい

まして、この一連のご協力について感謝を申し上げます。

また併せまして、この法律制定のみならず、災害医療体制についてのさまざまな協力関係、さらには協力可能火葬場の一覧表の作成とかいった形で、具体的に愛媛県と本県との間で、災害時の協力関係についてお話をさせていただいておりますことについて、本当に御礼を申し上げなければならないと思っております。今後ともよろしくお話を申し上げます。

そういう中で、2点新たな取り組みについてお話を申し上げたいと思います。この南海トラフ地震対策の特別措置法が確かに制定をされました。今後これが施行されていく中で、いろんな具体的な取り組みがさらに加速をしていくこととなりますけれども、しかしながら、具体的な取り組みとして国に対して求めていかなければならない事項というのは、まだまだたくさんあるのではないかと考えているところです。例えば、高台移転をより容易にしていくためにも、防災集団移転促進事業とかにつきまして事業補助の上限額、こういうものをもう一段撤廃する必要があるのではないかと、そういうことを訴えなければならないのではないかと思いますし、また災害時の医療救護のあり方などについて、もう一段国において検討を深めていくべきではないかと、国に対してしっかり提言をしていかなければならないのではないかと考えておるところです。

実際、災害時の医療救護の問題なんかを取り上げましても、本県でも想定上は3万6千人ぐらいの負傷者が出るのではないかと想定をされています。こういう方々を1人1人トリアージしてヘリコプターで3次救急医療を担う病院まで運んでいけるのかといっても、なかなか現実問題としてはそうはいかない。やはり災害時の医療救護は、災害時の医療救護として独特の体制を考えていかなければならないと思います。残念ながらまだまだ国においてその検討というのは深まっていないのではないかなど、私自身は思っております。こういうまだまだ残された大きな課題があります。特に応急期とかをにらんだときに、非常に重要だろうと思われる対策がたくさんあります。

引き続き9県知事会議の枠組み、さらに四国知事会の枠組み、こういうものを通じて、強く国に訴えていかなければならないと考えておりますので、同じ南海トラフ地震に直面する県同士として、さらに連携を深めさせていただきたいと思っております。これが第1点であります。

第2点目といたしまして、これは国土強靱化地域計画についての話でございます。私自身、国のナショナルレジリエンス懇談会に委員として参加をさせていただいているところでありまして、一連の国土強靱化の議論にずっと参加をさせていただきました。この国土強靱化の議論、よく公共事業をさらに増加させるための計画だなんて言われたりしますが、実際はほとんどソフト対策の固まりであります。いざ大規模災害が起こったときに、これに対してどのように備えるのか。ダメージを受けても全体が駄目にならない、そういうしなやかな強さを身に付けるためにどのような備えをあらかじめしておくべきなのかということを決めようとするのが、この国土強靱化の取り組みだと考えております。

法律ができて、地域での計画づくりを行っていかなければならない局面が来ておるだろうと思っております。国土強靱化地域計画、これは都道府県が事実上主体となって作っていかなければならないものだと思います。災害に直面する県として国土強靱化地域計画、この計画づくりにしっかりと積極的に取り組んでいきながら、一方で取り組んでいくことを通じて、自分自身の脆弱なポイントとか、さらには強化しなければならないポイントとか、そういうのが分かってくるだろうと思っております。

併せて、都道府県だけ、自分の県だけでは対応できないポイントというのもクリアになってくるだろうと思っております。これはほんとに自分たちの県のために重要なことだと思いますので、この国土強靱化の地域計画づくりに本県として積極的に取り組んでいきたいと考えておるところです。

その上で、やはりそういう取り組みを通じて、国に対してこういうことをぜひやってもらわなければならない、都道府県だけでは足りない、高知県だけでは足りないということが出てくるのではないかと思います。そういうものの広域的な調整を国の方でしっかり担っていただく必要があろうかと思っております。

地域計画づくりをしっかり両県でそれぞれ行っていきながら、併せて、足りないと思われる部分について、共同でこちらをピックアップして国に対して訴えを進めていく。そういう流れでやるべ

きことはやりながら、言うべきことは言うという形で取り組みを進めていきたいと考えておりまして、この点についてもぜひ協力を強化させていただきたいと思っております。より具体的な内容に入っていくと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

今日、こちらへ来て五台山展望台を案内していただきまして、愛媛県でも津波被害軽減については愛南町など宇和海沿岸部を中心に考えているところですが、高知県の場合は、県庁所在地である高知市がまさに海の前面にあるということで、地元企業が開発した液状化対策の技術を駆使するなど、ほんとうにいろいろな角度から知恵を絞られ、非常にスピーディな対応を開始されているとつくづく感じました。

愛媛県でも沿岸部に小さな集落がたくさんありますが、ともかく命を助けよう、命を守ろうということで、緊急の避難路を手すりなども含めて一気に整備しようということで、2年間で352か所の整備が完了しました。次は、避難所にいざというときにある程度いられるように、必要な資機材を順次整備していくという段階に入っているところです。

それから、防災士の資格取得者をどんどん増やそうということで、これまで愛媛県では約1,500人養成してきましたが、さらに1,300人増やすべく、今順次計画をしているところです。

問題は、県単独でできることは限られていることです。やっぱり抜本的な対策は、国全体の問題になると思っておりますので、尾崎知事から指摘のあった南海トラフの法律制定を受けた対策、それから国土強靱化のソフト対策等、ぜひ力を合わせて提言をしていきたいと思っています。特にこの特措法の制定については、尾崎知事には9県知事会議の会長として取りまとめ等に東奔西走していただき、心から感謝しています。

また、災害医療については、愛媛県では今年の12月の供用に向けて県立中央病院を全面建て替え中で、病院の機能も随分変わる関係もあって、災害医療をどうするかということをもう一度考えるときを迎えています。県内にとどまることなく、広域での災害医療連携も視野に入れていきたいと思っておりますので、ぜひ御協力いただけたらと思います。

最後に、後ほど出てきますが、愛媛県にとって原発事故時の避難も課題です。もちろんそうならないための対策が一番重要ですが、最悪の場合というものを考えておかなければいけません。もう一つ、「8の字ネットワーク」の問題も後で出てきますが、どう考えても四国はこれだけの被害が想定されているにもかかわらず社会資本整備がまだ遅れているという現状認識をみんなで共有しながら、これまで以上にチームワークで国に対して現状を訴えて、国の責任を果たしていただきたいという声を上げていく必要があると思っておりますので、一層の連携強化をよろしくお願いいたします。

(尾崎高知県知事)

よろしくお願いいたします。今、災害時の医療救護の問題について、中村知事もおっしゃられました。本県もこれは非常に大きな課題だと思って、根本的な見直しを進めています。大学の先生方、例えば、河田先生とか矢守先生などに委員になっていただいて、災害時の医療救護のあり方について懇談会をもって、根本的に見直しをしまして、明後日もその会議を行うんですが、とにかく災害が起ると医療資源はダメージを受ける。そのうえで負傷者は激増する。需要側は激増していくという状況になるわけでありまして、本当にそれぞれの地域で絶対的な不足という問題が起こってくるわけでありまして。その中でどう対応していくのかということ、我々高知県として真剣に考えないといけないと思って今やっていますし、真剣に考えれば考えるほど、単県での対応では難しくなってくる。やはり広域連携が必要になってくる。

もっと言うと、広域連携では済まなくなっていて、日本全国、さらには外国の助けも必要になってくるだろうと想定されるわけでありまして。まず、自分たちでやることをしっかり確立をさせるとともに、併せて、先ほどお話がありましたような四国内での助け合いということについて、ぜひ我々も情報提供させていただきながら、連携を深めさせていただきたいと思っておりますし、残念ながら、国は

まだまだここについての認識が甘いと私は思っていて、委員会でもずっと訴えてきてるんですけど、しっかり国も動かしていかないといけないと思っておりますので、またぜひ一緒に連携をさせていただきたいと思えます。

(5) 原子力発電所の安全対策及び事故発生時における連携等について

(尾崎高知県知事)

それでは、先ほど少しお触れにもなりましたが、原子力発電所の安全対策及び事故発生時における連携等について意見交換をさせていただきたいと思えます。まず、中村知事からお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

伊方原発については、愛媛県が単独で電力事業者に対して、独自の安全対策の実施要請をこの約3年の間、積み重ねてきました。

その項目は7つありますけれども、例えば国が示した電源対策以上のアディショナルな電源対策の実施、これは既に完了してはいますが、変電所から伊方1号機・2号機・3号機に新たな送電線を敷くという追加措置、あるいは「揺れ対策」については、今ちょうど基準地震動の問題が規制委員会の方で議論されていますが、耐震裕度、すべての機器の点検を図って、概ね1,000ガルの地震動に耐えられる補強工事の実施を順次行っています。

それからもう一つが、ここが一番大事だと思いますが、隠し事をさせないということで、全国でも愛媛、四国電力だけの方式ですが、伊方原発内で起こったすべての通常以外の事象については愛媛県に速やかに報告をし、公表の権限というのはすべて愛媛県が持ち、電力会社には持たせないと。この方式によって隠し事をさせないという伊方方式ルールを確立しました。そういったことを7項目ばかり突き付けてきました。

事業者も誠実に実施に移してくれており、これらもすべて逐一、四国4県あるいは山口県、広島県、大分県に、どんな状況かというのを愛媛県から速やかに報告するというのを積み重ねているところです。これだけの方策を独自にやっているのは、他の地域がどこまでやっているかは分かりませんが、多分伊方ぐらいだろうと思っています。

ただ、今後の再稼働の問題については、国がどうするのか、どういう経緯でどのような責任で再稼働するのか、しないのか、どう決めていくのかということ国が示さない限り次のステップにはいきません。あくまでも我々は新たな視点によりさらなる安全対策が必要な場合には、今までどおり電力事業者に要求を突き付けていき、すべての情報を公開していく。ここを大事にしていきたいと思っています。

一方で、避難路の問題とか愛媛県独自の問題もありまして、大洲―八幡浜道路の完成がないと八幡浜エリアの地域の皆さんが東へ逃げる道がないという大問題を抱えている点はぜひ知っておいてほしいと思っています。

いずれにしても、とにかく何よりも安全というものを徹底させることを、地域からも、国の指示を待つのではもの足りないという認識の上に立って向き合っていきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

本当にこの伊方原発の問題については、中村知事が大変厳しい姿勢で安全対策を追求していただいておりますことに、我々としても敬意を表させていただきたいと思えます。

そのうえで、まず国において、とにかく厳格なうえにも厳格な審査を行っていただいて、安全基準を満たさないものは再稼働させないという厳しい姿勢をぜひ堅持をしていただきたいと思います。また本県も非常に関心が高いということもありまして、四国電力と共同で、我々はいわゆる勉強会方式と言っておりますけれども、勉強会を担当者同士で開催をさせていただいて、多くの

皆様が思われる素朴な疑問をぶつけて、平易な言葉で皆が納得できるような回答を得られるまで問いを発し続けるという取り組みもしておりまして、我々としてもしっかりと安全対策を追求していくように取り組みを今後も進めていきたいと考えておるところでございます。

(6) 「四国8の字ネットワーク」の早期実現に向けた取り組みについて

(尾崎高知県知事)

それでは「四国8の字ネットワーク」の早期実現に向けた取り組みについて、意見交換をさせていただきたいと思っております。

この点につきましては、本日、具体的なお話をさせていただきたいと思っております。宿毛市と愛南町を結ぶ、この宿毛―愛南ルートについて、ぜひ早期に計画段階評価をこの区間について行っていただき、具体的にどこにこの高速道路が通ることとなるか、その位置を具体的に決めていただきたいと、これを国に強く要望していきたいと考えておるところです。

このように言いますのは、宿毛市また愛南町もそうだと思いますが、ともに津波で大変な被害を受けるところであります。特に宿毛市は長期浸水が予想をされているところでございます。こちらでも新たな想定を計算していく中で新たに分かったことですが、長期浸水をするであろうということが予想されていまして、今後、防災対策を強化していかないとはいけません。その中で防災対策を強化するに当たって、高速道路がどこを通るかということは、その防災の基幹となる施設の位置にかかわり、防災の根本にかかわる問題でございます。そういう意味で、早く計画段階評価をしていただかなければならないのですが、そういう中において、地元として、どこにルートを設定してもらいたいのか。具体的に言うと、よく言われる選択肢として、山側ルートなのか海側ルートなのかという問題について具体的に意思を決定して、そのうえで国に訴えをしていくということが重要だと、そういう時期に来ておろうかと考えております。

この点、本県といたしましては、ぜひ今申し上げますような理由から、海側ルートを選択させていただきたいと考えておるところでございます。

まず、その理由の第1点でありますけれども、インターチェンジの位置を考えましたときに、宿毛インターチェンジというのが今宿毛市街地の東側にあります。西側の人々が愛媛の方に高速道路を使って行こうとしたときに、一旦、宿毛側に東へ行ってから今度西に向かって移動するという、非常に非効率なことになりかねない。それを考えますと、宿毛市の西部の方にインターチェンジがあった方がいいのではないかなということが考えられるところであります。そこにインターチェンジを設けるとしたとき、山側にインターチェンジを設けるのでは新たに作り付け道を作らなければならないという、非常に時間も掛かるしお金も掛かるということになりかねない。そういう問題があります。

また、平時の利用ということを考えましても、海側ルートを使うことによって、宿毛湾港を有効に活用することが可能になってくるということでもございまして、これは、愛媛県側にしても高知県側にしても、ともに平時の産業活用という点においても非常に有効ではないのかなと考えておるところです。実際、宿毛湾港は10mぐらいの水深もありまして、「飛鳥」とか大型客船も寄港する港になっておりまして、そういう観点からもぜひこの宿毛湾港と一体となった運用のできる位置に高速道路、即ち海側ルートをということをぜひ訴えたいと思っております。

さらに加えて言えば、災害時のことを考えましたときに、災害に対応できるように今宿毛湾港の整備を進めておりますけれども、災害時のさまざまな支援物資の陸揚げ拠点として宿毛湾港が活用されることとなるかと思っております。その宿毛湾港と高速道路がつながっていれば、愛南町向けにしても宿毛市、さらには西南部一体向けにしてもスムーズに災害物資を運ぶことができるということになるのではないかと考えております。

以上のような点で考えますと、この愛南町と宿毛間のルートにつきましては、ぜひとも海側ルートということで、両県で意見を一致させていただければなと考えておるところでございます。ぜ

ひ、ご検討よろしくお願ひ申し上げます。

(中村愛媛県知事)

まず、この「8の字ネットワーク」のミッシングリンクが解消しない限り、高速道路の時代が本当の意味で四国にはやってきたとは言えないと思います。とりわけ、四国の西南側のエリアの整備が、若干他と比べて遅れていますので、高知と愛媛をつなぐルートとして、ぜひとも1日も早い実現を目指していきたいと思っています。

特にこのエリアは、津波が押し寄せることが想定されているエリアでもありますから、いざというときの避難路や物資の輸送路という災害対応の意味においても、非常に重要だと認識しています。

ルートについては、恐らく最初は最短ということで山側ルートが検討されたのだと思いますが、今尾崎知事から話があったように、平時の運用、それから宿毛湾とインターチェンジとのアクセス等を総合的に勘案すると海側ルートの方が機能的ではないかということだと思っています。また、この海側ルートについては、地元の宿毛市と愛南町もより効果的だということで合意していると聞いていますので、今日尾崎知事から御提案のあった海側ルートについて愛媛県側も同意して、国に対して働きかけていきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

どうもありがとうございます。一刻も早い計画段階評価の実現に向けて、もっと言えば事業化の実現に向けて、海側ルートということで協働して働きかけをさせていただきたいと思っています。また、よろしくお願ひいたします。

(7) 四国における鉄道の抜本的高速化に向けた取り組み及びJR予土線の利用促進について

(尾崎高知県知事)

急ぎ急ぎで恐縮でございますが、最後の項目2つについて議論をさせていただきたいと思っています。

四国における鉄道の問題でございます。まず、四国における鉄道の抜本的高速化に向けた取り組みについて意見交換をさせていただきたいと思っています。まず、中村知事からお願ひいたします。

(中村愛媛県知事)

この新幹線の問題ですけれども、最近マスコミも賑わすようになってきました。北海道、九州、残っているのは四国のみという状況になりつつあります。そういう意味では、打ち上げていくタイミングを迎えているようにも思います。

今まで愛媛県はフリーゲージでの追求をしていましたが、やっぱりスキームの中身を掘り下げていくと、財政的な負担というのは新幹線規格の場合低いわけですし、このあたりも考えて練っていく必要があると思っています。ただ、この事業には莫大な経費が掛かりますから、先般B/Cの数値がとりあえず暫定では出て、妥当性が一応あるということですが、今後とも経費の精査であるとか、またそれぞれの県民の気持ちの高揚であるとか、そういったものがないとなかなか事業化は難しいと思います。夢の四国新幹線は、すぐできるわけじゃなくて、恐らくもう20年、30年という月日が掛かる話ですが、それぞれが情報を共有しながら、その夢の種をまくきっかけができないかと思っています。

鉄道についても一つ、予土線については、ほんとうに高速化とは逆行する路線になって、もう今の時点ではそれを売りにしています。「しまんトロッコ」は非常に好評を博していると聞きますし、先般宇和島駅には例の新幹線型の、あの名前は何でしたか。

(尾崎高知県知事)

0系新幹線ですね。

(中村愛媛県知事)

0系新幹線似の列車も大変好評を博してしまし、海洋堂ホビートレインを含めて、レトロ調の路線というのも非常によいと思っています。

と同時に、四万十との先ほどのサイクリング連携を考えたときに、やっぱりサイクルトレインの常時運行というものが視野に入ってくればと思います。通勤・通学とか混んでいる時間帯は別にして、調査すればこの時間は大体空いているというのは分かるはずで、空いている時間帯は気楽に自転車が持ち込めるというキャラクターを予土線にもたせて情報発信したときに、やっぱり四国はサイクリングパラダイスだという位置付けができるようになるのではないかと思いますので、私はサイクルトレインに期待しています。ぜひ実現に向けて、また協力していただきたいと思っています。

(尾崎高知県知事)

まず、四国新幹線の問題でありますけれども、先般の試算によってB/Cが、暫定ではありますでしょうけれども、B/Cが1を超えるという調査結果が得られたわけでありまして、このことは四国においての新幹線整備について本格的に検討すると、そういう一つの契機になることではないのかなと思っています。さらに検討を今後しっかりと深めていかなければならない。そういう意義が出てきたということなんだろうと考えておるところです。

一つ、非常に多額の初期投資が掛かることでありますから、先ほど中村知事も言われましたように、さらに検討をしっかりと深めて精査していくということが重要だろうと思いますし、あともう一つ、この整備新幹線について言えば、並行在来線の問題があるかと思っています。この新幹線を整備することでのプラスとともに、この並行在来線問題が果たしてどうなっていくのか。この点についても、併せて精査をしていかなければならないと考えております。

非常に夢のある話でありますので、しっかりと夢を持って検討を進める。併せて、そういう諸課題につきましても、しっかりとした詰めを進めていければと考えております。また、連携してやらせていただきたいと思っています。

また、JRの予土線の利用促進は本当に大賛成でありまして、先ほど高速化の逆をいく話と、むしろそこを逆手にとって売り出していくべきだとおっしゃられたのは、私も大賛成でありまして、先日まんが王国関係の売り込みのイベントで、私、ニコニコ超会議というのに出たんです。鳥取県と岩手県と高知県3県で、まんが王国の取り組みをPRするというので、高知もいろんな漫画関連の施設のPRをしたんですが、少なくとも目の前にいた聴衆の皆さんの中で一番つかみが良かったのはやはり0系新幹線の話でした。

最高速度が0系新幹線は250km/hですけど、この予土線の0系新幹線は84km/hなんですよとか話をすると大変受けましてね、やっぱりこういうところはいいなあと実感したところでした。ぜひ予土線の良さ、即ちいい田舎のルートであって風光明媚なところを走り、海洋堂ホビー館をはじめとした、そういうホビーを絡めた遊び心のある路線であるということをぜひ売り込んでいければと思います。ぜひ共同のPRをお願いしたいと思います。

そして、もう1つがサイクルトレインです。この取り組みもぜひ常時できるようになればと私も思っておりまして、ホビートレインでありサイクルトレインである。こういう予土線の良さ、進化というものを発揮できるように、ぜひ常時運行化に向けてJR四国さんと協議をとともに進めさせていただければと思います。よろしくお願いたします。

○ PR事項

(尾崎高知県知事)

どうもありがとうございます。それでは、以上で意見交換を終わらせていただきたいと思いますが、今日は多くの記者の方にもお出でいただいておりますし、せつかくの機会でもありますので、

両県のPR事項としてそれぞれ取り組んでいるさまざまなイベントなどにつきまして、情報発信をさせていただきたいと思っております。

それでは、まず中村知事、よろしくお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

まず、今、日中関係等々がいろいろな課題を抱える中、松山から上海に向けて飛んでいる中国東方航空の路線の搭乗率がかなり下がりました、実は1月から3月まで運休しました。4月から再開して、愛媛県も当面バックアップするという体制で臨んでいます、今は月曜日と金曜日の週2便、出発が午後1時5分ということで、高知からの移動を考えてもそんなに無理のない時間帯になっています。高知から利用される場合は貸切バス代の助成、それから駐車場料金の割引、こういったものもメニューとして用意していますので、またぜひご活用いただけますでしょうか。

次に、今しまなみ海道を舞台に「瀬戸内しまのお2014」というイベントを7カ月間にわたって展開中です。例えば市川海老蔵さんによる大三島での歌舞伎であるとか大きなイベントも時折ありますが、メインは島の住民の皆さんが行う民間企画イベントでありまして、例えば大島の石切体験とか、その地域ならではのメニュー、豊富なイベントが愛媛側だけでも70個ぐらい用意されていますので、ぜひお越しいただけたらと思っています。特に、本屋大賞を受賞した「村上海賊の娘」、これはもう間違いなくこれからブームになって、やがて映画化、ドラマ化も期待されていますから、今のうちに見ておいた方がお得ですということです。

また、この「瀬戸内しまのお2014」の最終日、10月26日に日本最大規模のアマチュアサイクリングイベントを行います。しまなみ海道の高速道路をすべて止めまして、6時間自転車に開放いたします。スピードを争うイベントではなくて車道を楽しんでいただくというイベントで、ファミリーコースの15キロからある程度の上級者向けの最大110キロのコースまで10コース用意されています。5月23日からホームページで一般募集を開始します。先着順で、8,000人のエントリーを予定しています。

次に、前にも紹介しました松山市の隣の東温市にある坊っちゃん劇場です。これまで60万人、現在は年間10万人近くが来場し、劇場として定着してきました。9作目となる本年度の作品は現在の道後温泉本館を造った伊佐庭如矢の物語です。みんなが反対する中、100年先を見越して事業化に踏み切るといふ、そういう信念を貫く町長であった如矢さんの人生が描かれていますので、ぜひ鑑賞にお越しください。

最後に、高知県に大変お世話になったことがあります。3年後の「愛顔あふれるえひめ国体」は、本県での初めての単独開催になりますが、どうしてもカヌー等の競技場が県内で確保できないので、高知県にお力をお借りしまして、その競技場を提供していただけることになりました。この席をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。今後も御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(尾崎高知県知事)

ありがとうございます。本当に国体の関係は、ある意味高知でも開催していただいてありがたいぐらいのことですのでございまして、こちらこそ一緒に取り組まさせていただきたいと思っております。

本県からは1点であります、今、高知県でこちらにありますように「リョーマの休日」キャンペーン、「高知家の食卓」というのをやっております、昨年の6月から「高知県は、ひとつの大家族やき。高知家」ということでPRしておりますが、その中で今年観光キャンペーンとして、この「高知家の食卓」というのを特に取り上げて、取り組みを行おうと思っています。県内各地、愛媛さんもそうだと思いますが、いろんな食にまつわるさまざまな観光資源がございますので、歴史、自然観光とともに、この食を大いにご堪能いただきたいと考えておるところです。

そういう中で1つ、こちらに「高知家イチオシグルメガイド」というのをお配りさせていただいておりますが、これ実は昨年の12月から今年の1月にかけて「高知家の食卓」県民総選挙というのをやりました。県内のそれぞれの世帯に県の広報紙を配るんですが、その広報紙の中に投票券を入

れておきまして、その投票券をもとにそれぞれ一押しのお店、県外の観光客の皆さんにぜひ紹介を
したいと思うお店を3軒書いてくださいとって投票していただきました。1万4,000世帯ぐらい
から投票があったんですが、それを集計しまして、それぞれのエリアでトップ1%まで選ばれた店
がこちらに掲載をされています。

特にそのトップ1%の中でも、その1位のお店については1位だということを明示して、こちら
で公表させていただいておるところです。これ県民の皆さんが本当に投票で選んだお店ですから、
ある意味信憑性がありますので、本当においしい店、これ県庁が指定したとなるといかなものか
なことになるのかもしれませんが、投票ですからね、信憑性もあることだと思いますの
で、またぜひ愛媛の皆さんにもこの「高知家グルメガイド」を見ていただいて、高知県民のお薦め
の店に皆さんぜひお出でいただきたいなと思います。以上でございます。

(中村愛媛県知事)

これだけ選んだら、尾崎知事は全部行かないといけないですね。

(尾崎高知県知事)

まだ、これでトップ1%ですから。残り99%にいいのがたくさんありますけどね。

それでは、どうもありがとうございました。そろそろ予定した時間になりましたので、これで終
わらせていただきたいと思います。

4 閉会あいさつ

(司会)

どうもありがとうございました。本日意見交換をしていただきました事項のうち、対応が必要な
案件につきましては、両県でお互いに知恵を出し合ひまして積極的に取り組んでまいりたいと考
えております。

それでは、閉会に当たりまして、愛媛県知事からごあいさつをいただきたいと存じます。よろし
くお願いいたします。

(中村愛媛県知事)

本日は、尾崎知事そしてまた事務局の高知県の皆さんには、会議の開催と準備に当たっていただ
き、御礼を申し上げます。

会場は五台山、由緒ある竹林寺に設定していただき、ほんとうに印象深いものでございました。
午前中は、五台山の展望台から高知市内を見て災害対応への思いを巡らせました。それから牧野植
物園は、単なる植物园を超え、見事に観光スポットとして存在しているということに驚きました。
また、開創1200年に合わせて、この50年に一度の御開帳中の竹林寺にも、大勢の皆さんがお越し
いただいており、大変嬉しく思いました。

会議の中では、大きな課題もあれば、そしてまた四国全体あるいは高知と愛媛で取り組んでいく
課題、こういったものが浮き彫りになったと思います。ほとんど全部が力を合わせて取り組んでい
けるようなテーマだと思いますので、この会議を通じて確認できたことを実際に現実につなげてい
きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

(尾崎高知県知事)

どうもありがとうございました。

5 閉会

(司会)

ありがとうございました。以上をもちまして、平成26年度の愛媛・高知交流会議を終了いたします。皆さん、本日はご協力を賜り、ありがとうございました。